

保津川かわまちづくり検討委員会

～ 設 立 趣 旨 ～

- 桂川は、京都市左京区広河原の佐々里峠付近を源流にして、下流の大阪府島本町で淀川に合流する延長約114km、流域面積約1,152km²の淀川水系の三大河川の一つである。
- この内、亀岡市の中心部を流れる区間は「保津川」という呼び名で親しまれ、その流れは沿川の田畑を潤すとともに、古くは長岡京や平安京の造営時に丹波山地からの木材を運び、江戸時代には角倉了以の保津峡開削によって、食料をはじめ多くの物資を丹波から京都に運ぶなど、重要な役割を果たしてきた。
- 今もその流れは、大都市近郊の豊かな穀倉地帯に用水を供給するとともに、都市の中の貴重な水と緑の自然空間として、また保津川下りやトロッコ列車などの観光名所として、さらにはアユモドキをはじめ多くの生き物の生息環境として重要な役割を果たしている。
- 一方、この桂川は、一度洪水になると保津峡の狭窄によって水位が著しく上昇し、これまで幾たびとなく氾濫を繰り返し、亀岡の歴史は水害との戦いの歴史とも言われるほど多くの被害をもたらしてきたところである。
- このような中、日吉ダムによる洪水調節と河道改修による治水対策が、鋭意、進められてきたところであり、平成10年には日吉ダムが完成、引き続き、河道改修についても着実に進展し、今日では、いわゆる当面計画での整備も完成を迎えつつあり、以前に比べ治水安全度は飛躍的に向上してきている状況にある。
- 今後は、引き続き、治水対策を段階的かつ着実に進めるとともに、このように沿川の人々の暮らしと深く関わり続けてきた保津川の歴史や文化を踏まえながら、河道改修に伴ってあらたに創出される広大な河川空間をはじめ、川を活かした新たなまちづくりが期待されているところである。
- このため、国の「かわまちづくり支援制度」の活用も視野に入れ、「(仮称)保津川かわまちづくり計画」を策定し、川を活かしたまちづくり、まちを活かした川づくりを推進しようとするものであり、計画策定にあたり、河川、自然環境、地域振興等の観点から幅広く意見を聴くことを目的として、有識者等からなる検討委員会を設置するものである。